キャンプ体験が中学生の「カウンセラーに対するパーソナリティ認知」に及ぼす影響
～性格特性との関連～

上西　翔大(生涯スポーツ学科　野外スポーツコース)
指導教員　黒澤　毅

キーワード：中学生,カウンセラー,パーソナリティ認知,性格特性

1.序論

キャンプカウンセラーが指導をするうえで参加者との関係性を理解することは非常に重要である.また,参加者がカウンセラーに対して,肯定的な認識をしているか，否定的な認識をしているかといったカウンセラーへの認知も重要である.一方,性格特性は個人によって大きな違いがあり，カウンセラーも各班違う人物であることから，参加者のカウンセラーに対する認知も差が出ると筆者は考える.

そこで本研究では，キャンプ参加者のカウンセラーに対するパーソナリティ認知次元を明らかにすると共に,カウンセラーの性格特性との関連を検討することを目的とする.

2.研究方法

【被験者】2013年8月11日～14日に行われたS県比良山系及びB大学周辺にて行われたサッカージュニアユースキャンプに参加した中学生25名と各班の大学生カウンセラー4名を対象とした.実習の主なプログラムは,ASE活動,登山,ビバーク,沢登り,カヤックであった.

【調査方法】カウンセラーに対し,性格特性を測定するため,和田[2)]が作成したBig Five尺度（5因子60項目）をキャンプ直前(pre)と直後(post)に行い,キャンプ中の指導・関わりについて,筆者が独自に作成した調査用紙を毎日の活動後に行った.また,参加者に対しては,カウンセラーとの関わりを調査するため，筆者が独自に作成した自由記述を含む調査用紙を毎日の活動後に行った．同時にカウンセラーに対するパーソナリティ評定[1)]を行った.

3．結果と考察

1)班別にみたパーソナリティ認知得点の平均と標準偏差及びFriedman検定結果を表1に示す.

表1　班別にみたパーソナリティ認知得点の平均と標準偏差（Friedman検定結果）

N=25	1日目	2日目	3日目	4日目	χ^2
	M (SD)				
1班	127.57 (6.80)	126.85 (11.22)	131.42 (8.73)	134.28 (5.22)	9.09*
2班	102.00 (7.64)	105.33 (11.32)	103.00 (8.89)	103.16 (9.86)	0.67
3班	119.33 (8.98)	120.00 (14.48)	123.83 (17.58)	125.50 (16.67)	9.36*
4班	117.83 (13.71)	119.16 (14.54)	122.83 (15.09)	129.16 (12.29)	4.96

*p<.05

その結果,1班と4班の得点が1日目から4日目にかけて有意に向上し,3班の得点は2日目から4日目にかけて有意に向上した.2 班の得点に有意な差はみられなかった.その理由として,2 班のカウンセラーは女性であったことが考えられる.参加者は25名中24名が男子であったことから,異性である女性カウンセラーに対して,接しにくさを感じていたことや,プログラムがハードな内容で構成されていたこともあり,女性カウンセラーの体力面に余裕がなくなったこともその理由として考えられる.また,沢登りなど参加者との信頼感を構築する活動において，安全確保のために，男性カウンセラーが重要なポジションに配置されたこともあり，女性カウンセラーの関わりが薄くなってしまったことも影響したと考える.

2)キャンプカウンセラーの性格特性は,外向性,誠実性,調和性因子に向上がみられた．特に,大学4年生のカウンセラーにおいて性格特性の向上がみられ,その理由として,キャンプ経験や知識が多いことから，キャンプ指導をするなかで自分自身を見つめなおす余裕があり，性格特性が向上したと言える.また,大学2年生のカウンセラーは経験の少なさから，キャンプでの気苦労や精神的疲労がみられたことが性格特性に影響した.(表2～5)

表2　1班カウンセラーの得点変化

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
pre	21	62	31	37	36
post	20	66	25	44	31
得点差	1△	－4△	6△	−7△	5△

△=正に変化

表3　2班カウンセラーの得点変化

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
pre	33	34	49	41	40
post	31	36	52	41	41
得点差	2△	－2△	−3▼	0	−1▼

△=正に変化,▼=負に変化

表4　3班カウンセラーの得点変化

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
pre	39	63	45	59	45
post	33	58	54	53	43
得点差	6△	5▼	−9▼	6▼	2△

△=正に変化,▼=負に変化

表5　4班カウンセラーの得点変化

	外向性	情緒不安定性	開放性	誠実性	調和性
pre	23	53	44	47	35
post	19	51	38	53	18
得点差	4△	2▼	6△	−6△	17△

△=正に変化,▼=負に変化

3)パーソナリティ認知4因子とBig Five5因子についてPearsonの相関分析を用いて分析を行った結果，カウンセラーの情緒不安定性と信頼性にパーソナリティ認知との相関がみられた．カウンセラーの不安や動揺が参加者の認知に影響したことが考えられ，カウンセラーとして重要な要素として挙げられている情緒的な安定性，不安定性が参加者の認知に強く影響した結果となった.また,それぞれのカウンセラーの性格特性に対する参加者のパーソナリティ認知傾向に差が見られ，カウンセラーの性格特性が参加者のパーソナリティ認知に影響したと考えられる結果となった.

4．まとめ

カウンセラーに対するパーソナリティ認知は向上し，カウンセラーの情緒不安定性とパーソナリティ認知に相関がみられた.しかし,カウンセラーに対するパーソナリティ認知は，性格特性以外の様々な要因に影響を受けることが考えられる．本キャンプにおいても，カウンセラーの経験やスキル,性差などによる差が考えられた．今後は,パーソナリティ認知に影響を及ぼすと考えられる要因について,さらに細かく明らかにする必要がある.

引用・参考文献

1)土方圭,橘直隆,坂本昭裕（2003）：キャンプ参加児童・生徒のキャンプカウンセラーに対するパーソナリティ認知に関する研究,国立オリンピック記念青少年総合センター研究紀要,第3号,29 - 36

2) 和田さゆり（1996）：性格特性用語を用いたBig Five尺度の作成,心理学研究,67巻,第1号,61－67